

報告第6号

令和2年度教育委員会事務の点検及び評価に関する報告について

令和2年度教育委員会事務の点検及び評価に関する報告書を別紙のとおり作成したので、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条第1項の規定により報告する。

令和3年9月3日提出

里庄町長 加藤 泰久

令和2年度

教育委員会事務の点検及び評価に関する報告書

令和3年9月

里庄町教育委員会

I はじめに

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「地教行法」という）により、全ての教育委員会は毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し議会に提出するとともに公表しなければならないことになっております。

本報告書は、地教行法第26条に基づき、令和2年度の点検及び評価を行い、報告するものです。

〈参考〉

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抄）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

II 点検及び評価の方法等

1 対象

令和2年度の教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況

2 報告

令和3年9月3日 議会に提出

3 公表

教育委員会事務局での閲覧

町役場の掲示場に掲示及び町ホームページでの公開

III 点検及び評価

1 教育委員会の組織・活動

（1）会議の運営等

教育委員会議会は、定例会を毎月1回（令和2年度：計12回）開催し、必要に応じて臨時会（令和2年度：計4回）を開催しました。（※資料1）全員が出席し（定例第7回・臨時第1回第4回を除く）十分な時間を掛けて審議及び協議を行い、充実した運営となっていま

す。令和2年度臨時会については、新型コロナウイルス感染症対策の協議を行ったため、回数が増加しています。審議を深めるための工夫として、事前に事務局に議案書及び関係資料を提出させるよう努め、今後も引き続き改善したいと考えています。

町長とは、総合教育会議（9月・2月）や諸行事での会う機会を通じて、「里庄町教育大綱について」「非認知能力の取組について」「GIGAスクールの具体化について」を議題として、意見交換や協議、支援の要請などを行い、連携を強化することに努力してまいりました。今後も町当局との連携を図り、一貫した教育行政を進めることが、重要と考えています。教育委員と町長との懇談や意見交換は、両者の円滑な連携と一貫性を図るために重要であると考えており、今後も引き続き実施したいと考えております。

事務局の職員体制については、令和2年度から学芸員を町費で配置し、文化財などに関する専門性を高め、文化財保護委員と連携することで体制の整備を図りました。学校教育について、学校の指導支援を行う県費派遣の指導主事を継続して配置しています。また、地域と子ども達を結ぶ教育コーディネーターも継続して町費で配置し学校教育・社会教育の両面にわたり、専門性を高める取り組みを行っております。今後も、事務分掌の見直し等を図りながら効果的な体制の整備を図る必要があります。

地域の実情に応じた施策及び地域住民の意向を施策に反映することについては、各校の学校評議員会の意見や、本年度は、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策のため開催はできませんでしたが、学校・園の「現状」を広く地域住民の方々に知っていただくため、「一日学校公開」において、来場の際に頂くアンケートや、「教育を考えるつどい」での意見等も参考にして施策に生かすように努めています。コロナ禍において、学校教育及び社会教育の両面で工夫や努力が今後一層求められるようになっており、今後も鋭意検討を続けたいと考えております。

教育委員の研修は、委員としての識見の向上と、当町の幼児・児童・生徒の学力向上対策や豊かな成長が推進されるよう、岡山県市町村教育委員会連絡協議会にオンラインで参加をし「非認知能力」の研修に参加いたしました。先進地の学校訪問等を通して、具体的な取り組みを研修する事を目的とした県外視察研修につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響により中止といたしました。（※資料2）

それ以外にも、教育長、指導主事等が定期的に学校や社会教育関係施設の訪問を限られた時間の中で実施し、現状把握を行ったうえで、業務の見直しや施設の改善を提案しました。

学校（園）の行事や教育委員会主催の行事にも積極的に参加し、実情を理解しました。しながら、本年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、学校（園）行事の中止や縮小、教育委員会主催の行事についても、中止・縮小により参加行事が大幅に減少しました。

（※資料3）また、学校の現状把握のために、毎年実施している学校訪問についても、実施を中止し、各校（園）の抱える課題については、各学校（園）長からの定期的な報告をいただきながら、教育委員の見解を聴取したうえで、教育委員会の審議及び協議に役立て、可能な限り学校（園）の支援を行いました。

(2) 公開性

教育委員会が、町民にとって身近なものとなるよう、可能な限り情報を公開する方針のもとで、定例会の開催予定及び議事内容を町ホームページに掲載しています。議事内容については、プライバシーや個人情報等で配慮を要する事項も多々あり、今後も内容の公開につきましては、慎重に進めていきたいと考えております。

町主催の分館長会議に教育長や教育委員会事務局職員らが出席し、町民の方々から教育行政等についての意見や要望等を出していただき、教育委員会で検討いたしました。公聴活動は、町民の意志を反映した教育行政を推進するために大切なことですので、今後も町民の方々からの意見や要望等をしっかりお聞きし、また教育行政施策の広報について、今後も積極的に行いたいと考えております。

また、教育委員会及び学校・園の取組を紹介した「里ちゃんだより」(※資料4)を年3回発行し、町内全戸へ配付しました。

2 教育委員会が管理執行する事務

(1) 基本的・総務的事務

教育行政重点施策(※資料5)の策定など基本方針の多くは、事務局に原案や資料を提出させ、教育委員会として慎重に審議することができています。

教育関係予算については、各校(園)等の要望を聞き、教育長等が町長へ要求し、教育委員会としての意見を尊重した議案が議会へ提出されるよう努めています。

従来から当町の教育予算の比率は高く、教育が重要視されています。教育予算編成の話し合いにもっと時間をかけ、里庄町の教育がより充実するようにしたいと考えています。

(2) 人的管理に属する事務

町立小中学校の校長等の任免について県教育委員会に対して内申を行っていますが、今後も慎重に行っていきたいと考えています。文化財保護委員等各種委員の委嘱または任免は、教育委員会で議決しています。人的管理に属する事務については、県教育委員会及び町長部局との連携をより密にしていくよう努めてまいります。

学校関係職員の研修は計画的・効果的に実施され成果が上がっています。事務局職員の研修は日々の研修と県教育委員会や町長部局に委ねている研修があり、今後も充実させていく必要があります。

また今年度も、外部人材の活用や支援員等の配置、中学校における部活動休養日の設定夏季休業中(8月8日～16日)及び冬季休業中(12月28日～1月4日)の学校完全閉庁期間を設定、幼稚園・小中学校への「自動音声対応電話の導入」の定着など、学校現場における働き方改革に向けて、具体的な取り組みを実施しました。

新型コロナウイルス感染症は、学校教育において様々な影響がありました。4月20日から5月24日まで、新型コロナウイルス感染症感染拡大予防対策として、小中学校臨時休業を実施しました。この期間においては、分散登校を実施しました。幼稚園、小・中学校では、

1学期の終業式を例年の7月20日前後から、7月31日とし、小・中学校では2学期の始業式を例年の8月下旬から8月20日としました。運動会や修学旅行、学芸会などの学校行事についても、中止や規模の縮小、開催内容の変更など、初めてとなる新型コロナウイルス感染症対策に取り組みました。

また、今まで行ってきた行事や活動について「本当に実施しなければならないのか」「活動の狙いは何なのか？」などを、検討するよい機会にもなりました。

コロナ禍において、東西小学校放課後児童クラブ、幼稚園預かり保育の支援員や学校教職員、生活支援員や教育委員会が、子どもたちの居場所づくりや心のケアに、一丸となって努めた1年間となりました。

3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務

(1) 学校教育

新型コロナウイルス感染症対策として、各学校園では最大の配慮を行い、今までの学校生活様式から、新しい学校生活様式への転換を図りながら取り組んでまいりました。例えばマスクの着用、手指消毒、家庭での検温、室内換気の徹底、水泳授業の中止、一定方向を向き黙って食べる「黙食」の実施など、今まで経験をしたことがない生活様式に、教職員・園児・児童・生徒・学校関係者が取り組みました。日々変化する新型コロナウイルス感染症の感染状況を見守りながら、今後も取り組んでまいります。

小・中学校の全国学力・学力状況調査の結果は、概ね全国平均のレベルにあります。町としての学力向上の方針を示し、各学校も学校としての学力向上策を定めて鋭意努力しています。

教育委員会としても、学力向上を図るためソフト面やハード面の予算を措置いたしました。コロナ禍において、町内の幼稚園、小中学校の教育職員等を対象とした教職員研修はできませんでしたが、各学校園とも、校長を中心として情報の共有を図りました。

いじめ・不登校の解消に向けては、引き続き町をあげて重点的に取り組みましたが、登校できにくい児童・生徒が複数います。スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、浅口市にある「浅口大簡塾（適応指導教室）」を、浅口市と協定を結び利用可能にする等、今後も継続して解消を目指して取り組んでまいります。

特別支援教育については、特別支援学級・通常学級において指導の充実を図っています。具体的には、町の教育相談員が学校の要請により学校を訪問し、具体的な指導方法について支援しています。また、生活支援員を対象に特別支援教育の理解を目的として、研修会を年間2回実施しています。昨年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、中止といたしましたが、日頃の相談の充実に努めました。

小学校の通常学級に在籍している発達障害のある児童は、日常生活での様々な場面で困難さを感じています。その解消のため、児童が在籍している小学校での指導を行うとともに浅口市立六条院小学校内にある「あすなる教室」を、浅口市と協定を結び利用可能にすることで、一人ひとりの児童に応じた個別の支援が受けられるようにしました。そうすることで

学習の不安や友達関係やコミュニケーション面の不安を解消し、感情のコントロールの仕方等を身につけていきます。

少子化の進行などを背景に、子どもの育ちが大きく変化しており、様々な要因から小学校の生活になじめないことも見受けられます。里庄町では、保幼小接続スタンダードを作成し保育園、幼稚園、小学校が歩調を合わせ、幼児教育と小学校教育を円滑に接続し、子どもの育ちと学びを滑らかにつなげる努力をしています。

さらに、保幼小中のそれぞれの卒業期の姿を設定することで、就学前から中学校卒業までの11年間を見通した保育・教育が行えるようにしています。各卒業期の子どもの姿や、徳知体の各分野で付けたい力を明確にし、里庄町各園校の卒業期における「めざす子どもの姿」を設定しています。このことにより、幼稚園の先生が中学校の子どもの姿を意識して保育するなど、子どもの育ちの連続性を意識した保育・教育が行えるようになっていきます。

子どもたちがこれからの時代を生きていく上で、自分で主体的・自律的にキャリアを切り拓いていくための能力の獲得・向上が必要になります。この力は非認知能力と位置づけられ昨年度までの「明るい学校づくり」で目指してきた力も内包されています。岡山大学の中山准教授の指導を仰ぎながら、各学校で非認知能力を高める取り組みを行いました。具体的には、「自分を高める力（意欲・向上心・自尊感情・楽観性等）」「自分と向き合う力（自制心・忍耐力・レジリエンス等）」「他者と向き合う力（共感性・協調性・コミュニケーション力等）」を高めるために「里庄3シヨンプログラム」を導入しています。コロナ禍の影響で、計画通りには進んでおりませんが、年間2回のアンケートを実施し、実態に即した活動ができるようにしています。

子どもたちが安心して学習や学校生活を送れるように、幼稚園、小・中学校に生活支援員を配置しています。東小学校8人・西小学校に9人、中学校3人、そして東幼稚園2人、西幼稚園に2人で、落ち着いた学習環境が確保され、十分な成果を上げています。また、小学校から中学校1年生への進級にあたり中1ギャップを解消するため、小中連携支援員を2人、引き続き配置しました。

子どもたちが、スマートフォンやゲームを長時間する中で、ネット上のいじめや犯罪被害につながるケースが、大きな問題となっています。また、健康面の心配や学習時間の減少など、生活習慣の乱れも指摘されています。令和3年2月現在、小学校4年生～6年生の69%、中学校1年生～3年生の82%の児童・生徒が自分のスマホや携帯電話を所持しています。里庄町では、統一ルールとして、「使うのであれば午後9時までの使用とする。家庭の事情により、家庭内のルールが弾力的になる場合も考えられるが、友達等には、午後9時以降はメールやラインを送らないようにする。」としています。子どもを守るのは、社会の大人全体の責任であり、とりわけ、子どもの一番身近にいる保護者の行動が大変重要です。そこで、統一ルールと合わせて、家庭内のルール作りを子どもと共に進めるよう、各家庭での取り組みの徹底をお願いしています。

子どもたちの英語によるコミュニケーション能力の向上に努め、グローバルな人材の育成を目的とした英語指導助手については、令和元年度から自治体国際化協会による、語学指

導等を行う外国青年招致事業「JETプログラム」から2名の派遣をいただき、従来の民間派遣の1名と併せて3名での体制で授業を行いました。

里庄町では、学校給食は子どもたちの体や心を育てるのに重要なものであり、食事は人づくりの上でとても大切なこととして、学校給食に力を入れてきています。自校給食を実施し本年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、食堂での給食は実施しておりませんが、コロナが収束すれば、小学校ではできたての給食をファミリー形態で食べる取り組みに戻します。

小・中学校の耐震化・大規模改修工事は平成19年度末で完了しており、平成28年度には小・中学校の屋根防水工事を、平成29年度には小・中学校の教室への空調設置工事の設計を行い、平成30年度には、小中学校施設空調整備工事を実施し、普通教室、特別教室等にエアコンを設置・更新、令和元年度には、幼稚園遊戯室へエアコンを設置してまいりました。令和2年度は、GIGAスクール構想に基づき、学習ツールの利用等ICTを十分に活用できる学習環境を整えるため、全学年の児童・生徒に一人1台のコンピューター端末を整備したり、活用できるネットワーク環境の構築を行うことで、安全・安心な学習環境が確保されております。

(2) 社会教育

新型コロナウイルス感染症の影響は社会教育にも大きな影響を与えました。今まで普通に活動できたり、使用できていたものが、活動や利用の制限がかかることによってまったく異なった環境になってしまいました。しかしながら、町民の方々のご理解とご協力のおかげで、すべてではありませんが、普段の社会教育環境に、また工夫し新たな社会教育環境を形成しています。

町民のニーズに応じた各種講座を、年度当初から続いていた社会教育施設の制限解除に伴い、令和2年5月20日以降に開設しており、多くの町民が文化活動を通して生きる喜びを感じ、自己実現を図っています。今後も、企画運営を受講者自身が行う講座となるよう、一層の充実に努めます。

岡山県が制定した11月1日の「教育の日」に関連し、「里庄町教育を考えるつどい」小学校入学前の就学時健診時と中学校入学前の入学説明会の際に行う子育て講座や、保護者同士が共通の悩みをお互い考える、議論し合う講座など、家庭教育についての研修を行う機会について、新型コロナウイルス感染症の影響から、開催を中止したり、内容を変更して行いました。

平成28年度から始めた、学校の授業だけでなく、子どもたちが自ら学び体験することで生きる力を育み、地域全体で子どもを育てていく事を目的とする「さとしょう未来塾」事業も5年目となりました。自学自習を基本とした学習に取り組む「里ちゃん寺子屋」と体験を通じて子どもたちが「生きる力」を身につける「里ちゃんチャレンジ・ワールド」の2本の柱で、新型コロナウイルス感染症対策を行いながら実施し、地元地域の方々や、文化協会の方々、虚空蔵大学生などの協力を得ながら、地域の子どもは地域で育てる事を

コンセプトに取り組みました。子どもたちが地元の歴史をあらためて見直し、体験する機会や、地元の特産品「まこもたけ」の葉を利用したしめ縄作り、手話講座など、普段経験できない事業になるように検討・工夫を行いました。（※資料6）

町立図書館は、順調に蔵書数を増やし、令和2年度末に15万6千冊余りになるとともに、町民に親しまれる図書館を目指しております。新型コロナウイルス感染症の影響により、年度当初から閉館が続いておりましたが、5月10日から貸出返却業務のみ再開、5月20日から通常の業務を再開することができました。令和2年度の開館日数は244日、来館者は4万4千人余りとなり、2年連続で減少しました。貸出冊数は、約1万4千人の方に約5万8千点を貸出しておりますが、こちらも2年連続で減少しました。今後も新型コロナウイルス感染症対策をしっかりと行ったうえで、県立図書館や高梁川流域7市3町の図書館相互利用等、生涯学習の拠点施設として、町内外から好評をいただけるように努力してまいります。子どもたちが喜んで、本と親しめる環境づくりと、乳幼児と親子が安心して利用できる場所「おはなしの部屋」では、親子が読みたい本を自由に手にして読むことや、読み聞かせることで、読書の習慣づけができる環境が定着しており大変好評をいただいております。また、佐藤清明資料保存会の活動拠点（事務局）となっており、年間を通して「清明研究会」や「清明を読む会」などの活動に取り組んでいます。毎年図書館で開催している「里庄のせいめいさん」展も、多くのお客様に好評をいただいております。

男女共同参画社会の推進等、人権意識の高揚に関する講座や行事は、新型コロナウイルス感染症の影響により、計画通りには実施できませんでしたが、今後も事業の改善等を進めながら、状況の変化に適切に対応していく予定です。

文化の振興に関しては、総合文化ホール「フロイデ」や福祉会館、中央公民館などを有効に活用し、町民自らの活力や、行政と町民との協働によって、得られるエネルギーを生かしながら、町民のニーズと本町の実情に合った事業を展開してきました。新型コロナウイルス感染症の影響で、文化施設は年度当初から5月19日まで閉館を余儀なくされておりましたが、5月20日から開館し、お客様から「やはり他の方々とお話ができることは本当にうれしい」と言っていた言葉が印象的でした。文化ホール事業では、町制施行記念事業として「夏休み子ども劇場」をはじめ、予定していた自主事業が新型コロナウイルス感染症の影響を受け中止となりました。その状況下において、お客様の感染症対策のご理解とご協力により、NHKラジオ公開録音番組「真打ち競演」では、伝統芸能の奥深さや演芸の楽しさを、陸上自衛隊第13音楽隊「ハートフルコンサート in 里庄」では、音楽の素晴らしさを実感することができました。今回はお客様に抽選の形でご参加いただきましたが、コロナが収束した時には、幅広く町民の参加が得られ多くの成果をあげられるように努力してまいります。引き続き、施設の老朽化や新型コロナウイルス感染症対策における収容人員など、課題もあり一層の改善、充実に努める必要があります。

歴史民俗資料館では、「里見山中遺跡」展示コーナーが完成し、今後も遺跡等の展示物は増加の傾向にあります。仁科・小川両博士関係の遺品や、大原焼、麦稗真田関係の物、一般民具や昔から伝わっている農機具などの展示公開も行っており、今後、文化財保護委員

と学芸員が連携して、館内収納物の整理や、開館日の変更や周知方法について検討していきます。

文化財保護委員会は、教育委員会の諮問に応じて、文化財の指定・解除、保存及び活用に関し必要な事項を調査・研究し、教育委員会に答申しています。本年度は、里庄町指定文化財周知のため、お客様がより理解できる看板の内容検討を行い、作成を依頼しました。また、3月には、子どもたちに「大原焼」の素晴らしさを知ってもらうため、歴史民俗資料館を臨時に開館し、大原焼を見て、体験していただく事業に協力しました。今後も町内だけではなく町外の文化財研究にも力を注ぎ、保護委員会や学芸員と共に研修を行ってまいります。

スポーツの振興については、新型コロナウイルス感染症の影響が非常に大きいものであったと実感した年となりました。「つばきの丘運動公園」多目的グラウンドをはじめ、野球場、テニス場などのスポーツ施設や学校施設は、5月19日まで利用を制限したため、今まで活用されていた、多くの町民の方々がスポーツを楽しみながら健康の増進を図る場所が無くなった状況にもなりました。利用制限が解除となっても、グラウンドゴルフやソフトバレーボールなどのニュースポーツの普及促進のための大会は中止を余儀なくされました。スポーツ協会主催の大会も、ほとんどが中止となり、町制施行70周年記念大会を町民の方とスポーツで盛り上げる事はできませんでした。

青少年を対象にしたスポーツでは、小・中学生対象の柔道・剣道スポーツ教室、少年野球クラブ、里庄FCなども練習場所の使用制限や、各種大会が中止となり、練習の工夫や、里庄町での大会内容を縮小して開催している現状があります。

厚生体育大会、体力づくりふれあいマラソン大会も新型コロナウイルス感染症の影響により中止となり、参加を楽しみにされていた町民の方々にとって残念な結果となりました。昨年度里庄町チームとして初めて参加した「晴れの国岡山」駅伝競走大会も中止となり、関係者の方をはじめ、参加を望んでいた選手にも残念な結果となりました。

「町民一人一スポーツ」の目標達成を掲げ、誰でも・どこでも・いつでもスポーツが、できる環境を整備し、健康づくり・生きがいづくり・地域の絆づくりなどにスポーツが、利用されることを願っています。また、そのためにも、新型コロナウイルス感染症の早期収束と、感染症対策を徹底する必要があると考えます。

IV 学識経験者の知見の活用

地教行法第26条第2項に基づき、元公立小学校長平野尚哉氏に点検及び評価に関しての助言及び意見をいただきました。

里庄町の教育行政については、それぞれの立場で、その特色を活かした教育行政が行われ概ね安定的で良好な運営がなされていると考えている。しかしながら、少子高齢化、社会情勢の変化、デジタル化への対応など、学校経営や教育行政全般について、しっかりとした点検が必要であるとする。

学校教育については、幼稚園・小学校・中学校全体において、落ち着いた状況の中で、学力の向上や心の教育に取り組んでいる。かけがえのない一人一人を大事にしながら、今後も認めて育てる教育の推進に努めてほしい。そうすることで、一人一人が自覚をもち主体的に責任をもって行動できる人に、また自分や周囲の人や命を大事にする人に成長するように導いてほしい。

生涯学習については、町民一人一人が楽しんで参加できたり、勉強になったり、人と人とのふれあいのよさを感じ取れるようにしたりすることが大事であるとする。これらのことが、生きがいや健康づくり、そして地域づくりにも直結するとする。今後も、常に工夫を重ねながら取り組んでほしい。

教育委員会事務局の体制については、まだまだ事務処理の効率化が十分に図られているとは言い難い。多様な要望や意見などに適切に対応しながら、効果的な教育行政の実現に向けた一層の努力が求められている。今後も、課題、要望、意見などに対して、より望ましい方向への改善に努め、教育行政に反映していただきたい。

最後に、令和2年度は新型コロナウイルス感染症に対する対策をする中で、教育行政は毎日が模索の連続であったと思われる。新しい生活様式が叫ばれる今日、教育関係者全員がさらなる知恵を出し合い、よりよき物を追求する模索の時代に入ってきている。このことをお互い自覚することが、今まで以上に必要ではないかと考える。

里庄町社会教育委員に点検及び評価に関しての助言及び意見をいただきました。

大勢の子どもたちの中で、子どもたちが参加した事業で、たった一人でもその子どもにとって得た経験が生涯を決定することもあるので、行政効果を数だけでみないことを引き続き大切にしていきたいと思えます。

シビックプライドのまちづくりを目指すなかで、満足度の指標として行政から与えられることから来る満足度だけでなく、「あてにされている」ことから来る満足度も大事だと考えます。

里庄町の文化財や遺跡等について、出前講座のような形で発信することで、子どもたちや町民の方に、里庄町の良さを知っていただくと良いと考えています。また、歴史民俗資料館

の開館日を増やすことで、里庄町の歴史を町内外に知ってもらいたい。

コロナ禍においての初めての分散登校を経験したが、学校が中心となり説明や家庭への文書配布などがあり、スムーズに通学できた。分散方法を地区分けにしたので、人数に多少違いがあった。

1年間、新型コロナウイルス感染症により、スポーツ関係行事ができなかったことを残念に思います。小学校の児童で「あいさつ」ができない児童がいることが気になります。

計画していた行事が、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で中止・縮小することが多かったが、適切な判断だったと考える。

V 終わりに

令和2年度の本町教育委員会事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を実施し学識経験者及び社会教育委員の助言及び意見をいただき報告いたしました。

新型コロナウイルス禍において、その影響は私たちが想像していた以上のものがあり今までの常識が通用しない時期が来ていることを認識しております。また、新型コロナウイルス感染症との共存や、新しい生活様式の実効性が必要不可欠となっています。

その中で、今後も教育委員自らが点検及び評価をし、教育委員会を充実させ、教育委員会が町民にとって身近になるよう努力し、町民に支えられた、町民のための教育行政が展開できる教育委員会になるよう、引き続き努力したいと考えております。

資料

資料 1

令和2年度教育委員会会議

(1) 定例会

R2. 4月14日(火)	5月26日(火)	6月23日(火)	7月28日(火)
8月25日(火)	9月29日(火)	10月27日(火)	11月24日(火)
12月22日(火)	R3. 1月26日(火)	2月24日(水)	3月12日(金)

(2) 臨時会

R2. 4月 1日(水)	4月14日(火)	4月30日(木)	5月13日(水)
--------------	----------	----------	----------

資料 2

教育委員が出席した主な研修会等

11月 5日(木)	岡山市町村教育委員会連絡協議会研修会 「非認知能力の育成について」 岡山大学全学教育学生支援機構 准教授 中山 芳一 先生	里庄町福社会館 2階 研修室 Web研修
-----------	--	----------------------------

新型コロナウイルス感染症の影響により中止

※ 岡山市町村教育委員会連絡協議会総会

※ 里庄町教育委員会県外視察研修

教育委員が出席及び出席を取り止めた主な行事等

令和2年 4月 1日(水)	新任教職員着任式 (中止)
5月 日()	教育委員学校訪問 (中止)
6月 9日(火)	小川賞授与式 (出席取り止め)
8月15日(土)	平和記念式典・戦没者盆供養 (出席取り止め)
8月22日(土)	理化学研究所里庄セミナー (中止)
8月30日(日)	仁科芳雄博士顕彰 ロボット・コンテスト2020 (中止)
9月 5日(日)	中学校体育会 (出席取り止め)
9月12日(日)	青少年健全育成「未来の会」総会・第20回里庄町教育を考えるつどい(中止)
10月28日(水)	西小スポーツフェスティバル (出席取り止め)
11月11日(水)	東小スポーツフェスティバル (出席取り止め)
11月 日()	西小学校学芸会 (中止)
11月 日()	東小学校学芸会 (中止)
12月 6日(日)	仁科賞授与式
12月8・9日(火)(水)	東幼稚園生活発表会 (出席取り止め)
12月10・11日(木)(金)	西幼稚園生活発表会 (出席取り止め)
12月 日()	仁科芳雄博士生誕日記念科学講演会 (中止)
令和3年 1月10日(日)	令和3年成人式記念式典 (延期)
2月 4日(木)	第53回里庄町立志式

※ 幼稚園・小学校・中学校 入学式・卒業式については、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、各園校とも来賓の出席を取り止めとした

1日学校公開については、全ての学校園について中止とした

小学校のスポーツフェスティバルについては、運動会の代替行事として開催

里ちゃんだより



里庄町教育委員会

里庄町教育委員会 杉本 秀樹

電話 0865-64-7212

町民の皆様方には、教育行政の推進につきまして、平素より何かと大変お世話になっておりますことに、心より感謝とお礼を申し上げます。

現在、コロナ禍にあっても町民の皆様方のご理解とご協力とご協力の再開ができております。そのようなか、令和2年度の里庄町の教育行政の推進につきましては、「希望を持ち、豊かな心を育むまち」を基本目標として取り組んでいます。里庄町の次代を担う人づくりを推進するためには、学校、家庭、地域が一体となって取り組むことが大切です。また、大人も子どもも夢や目標に向かって、いきいきと生活できるように、地域に根ざした、文化、芸術、スポーツ等を生涯にわたって学び、楽しむことができ、環境づくりを進めてまいります。

町民の皆様方の今後とものご支援・ご協力をお願い申し上げます、ごあいさつといたします。

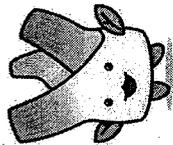
令和2年度 里庄町の教育目標

「希望を持ち、豊かな心を育むまち」

- 1 生きる力を育む学校教育の推進
 - 学校教育「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」
 - ・認めること
 - ・非認知能力の育成（3シヨンプログラム～「里庄」の力～）

あいさつ、落ち着いた集団の確立、主体性の育成、授業改善、基礎・基本の徹底、言語活動の充実による表現力の育成（論理的に書く力、コミュニケーション力）

- ・学校給食
- 家庭教育（認めること、基本的な生活習慣、しつけ、あいさつ、家庭学習）
 - 地域の人々との連携（コミュニケーション力の推進）
- 2 心豊かで生きがいを感じる生涯学習の振興
 - ・地域社会の教育力の向上、地域人材の活用
 - ・町民との協働によるまちづくり活動の推進
- 3 やすらぎとうるおいを感じる芸術・文化の振興・歴史の保存
 - ・先人の偉業に学び、地域に受け継がれてきた伝統・文化の伝承
 - ・町民の主体的な文化活動と世代を超えての人々の交流
- 4 生涯にわたるスポーツ活動の振興
 - ・スポーツ活動の推進
 - ・スポーツ指導者の養成
- 5 異なる国や地域・人との交流活動の推進
 - ・幼稚園、小学校、中学校における、国際理解教育・英語活動の推進
 - ・国際交流事業の推進を通じて、世界の人々との友好親善の精神を育成



令和2年度 里庄町教育委員会 学校教育の取り組みについて

里庄町教育委員会では、町内の園児・児童・生徒が落ちついた環境の中で、自分のよいところをもっと伸ばしていけるように、今年度は、次のような取り組みを行います。

- 1 各園校卒業期における「めざす子どもの姿」を明確にした取り組み
 - 幼稚園（保幼）、学童期（小）、思春期（中）のそれぞれの卒業時期の「育てたい子どもの姿」を踏まえ、里庄町全体の「育てたい子どもの姿」について教職員が共通理解を図り、保育や教育を進めます。どの校種の先生方もこの姿をイメージして子どもたちに指導・支援を行います。
- 2 非認知能力向上の取り組み（3シヨンプログラム～「里庄」の力～）
 - テスト等で測ることのできない力（非認知能力）を伸ばすことで、自分自身の力を伸ばしたり、他者と協働しながらよりよい社会をつくるための力を付けたりますことを目指します。岡山大学の中山先生にご指導いただきながら取り組みを進めていきます。

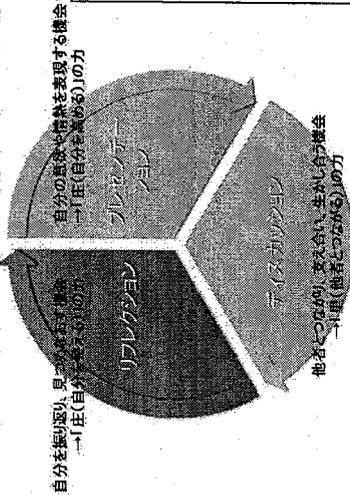
非認知能力は、大きく3つの力に分けられます。

- ① 自分と向き合う力・・・忍耐力や自制心 等
- ② 自分を高める力・・・意欲や向上心 等
- ③ 他者とつながる力・・・協調性や社交性、コミュニケーション力 等

この取り組みは、昨年度まで行っていた、「里庄町明るい学校づくり」の取り組みを含んでいます。明るい学校づくりでは、「相手の気持ちを考えて行動できる力」「積極的に人と関わることでできる力」を伸ばす取り組みを行いました。友達同士のトラブルが減少するなどの効果が現れてきています。今後もこの取り組みを、保育園・幼稚園・小学校・中学校が相互に情報交換を行い、お互いの取り組みの様子を参考にしながら進めていきたいと思えます。

指導主事 天野 正彦

3シヨンプログラムによって創り出される機会



里庄の力

「里庄」の力

「里(人と人がつながり合う場)の力
→人とつながることで、お互いに支え合い生かしながらの力

「庄(人が集うために必要な土台)の力
→人とつながるために、自分自身を整え、高めるための力

「里」の力+「庄」の力→「里庄」の力
※左の通り順番にするとは「里」の土台が「庄」になる

資料：岡山大学全学教育・学生支援機構
准教授 中山 芳一先生

里西っ子の「生きる力」を育てる

里庄西小学校・西幼稚園長 柚木 康男

本年度、里庄西小学校は全校児童354人、全16学級でスタートしました。「切磋琢磨」の校訓と教育目標「里西っ子の生きる力を育てる」のもと、「めざす子ども像」の「よく考え進んで学ぶ子ども」「仲良く助け合う子ども」「明るく元気な子ども」の3つを目指します。新型コロナウイルス感染症拡大防止のための対策を行い、子どもたちのよさや頑張りを確かに認め、自己肯定感を育む教育を進めます。重点としている具体的な取組は次の通りです。

- (1) よく考え進んで学ぶ子ども (知)
 - 学ぶ楽しさ、できる喜びを感じる魅力ある授業づくり
 - 基礎・基本の徹底 ○伝え合う活動の充実で表現力を育成
 - 学習規律の徹底 ○意欲的に進める家庭学習の充実
- (2) 仲良く助け合う子ども (徳)
 - 認めて伸ばし自己肯定感を育む学習指導・学校行事
 - 人・時間・協働を大切にすすめる生徒指導 ○道徳指導の充実
- (3) 明るく元気な子ども (体)
 - 体力づくりの推進と健康安全の強化 ○基本的な生活習慣の確立
 - 食育の推進

西幼稚園は、年少ちゅうりつ組・年長すみれ組合わせて園児数39名でスタートしました。小学校と一貫した教育目標を設定し、遊びを通して「意欲をもつてがんばる子」「思いやりのある子」「元気な子」を育てます。本年度も、保護者、地域、町民の皆様のご理解とご協力をいただきながら、心豊かで、たくましい里西っ子を育てていきたいと考えています。どうぞよろしくお願ひいたします。



栽培活動に取り組む児童



夢中で砂遊びをする園児

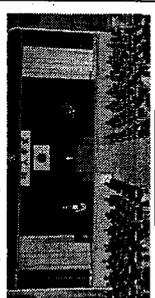
ポジティブ行動支援で元気な学校づくり

里庄中学校長 池田 敬治

令和2年度は、1年生103名、2年生99名、3年生94名の計296名、11学級でスタートしています。新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、休校期間があったり、様々な行事等が実施方法変更、延期、中止となったりしていますが、生徒たちは現在の状況の中で一杯、元気に学校生活を送っています。

里庄中学校は、令和元年度からの2年間、中教研浅口支部の研究指定を受け、「ポジティブ行動支援による元気な学校づくり」を研究しています。何か問題が起きた時に、ペナルティによって行動をコントロールするのではなく、問題が起こる前から、望ましい行動を育てるよう、生徒への肯定的な声かけや模範的行動への称賛などに取り組んでいます。昨年度は、教職員から生徒に向けての称賛を行ってききましたが、今年度は、生徒同士も称賛し合えるような仕組み作りを取り組んでいます。今後も引き続き、ポジティブ行動支援によって、学校の教育目標である「心豊かに学ぶ生徒の育成」の達成を目指し、生徒の自己肯定感を高めたいと思います。

また、様々な行事や活動の中で、本校生徒が町民の皆様と触れ合う機会があると思いますが、その際には、どうぞ温かく見守り、ご指導・ご支援をよろしくお願ひいたします。



入学式

「心豊かでたくましい里見っ子」の育成をめざして

里庄東小学校・東幼稚園長 松原 修

今年度の里庄東小学校は、全児童294名、全13学級です。落ち着いた学習環境と学習集団を基盤とし、学校目標の具現化に向かって教育を進めています。具体的には「進んで学ぶ子」「元気な子」「助け合う子」をめざす児童像とし、明るく前向きでやる気に満ちた児童が集う学校をめざしています。重点的な取組は次の通りです。

- (1) 進んで学ぶ子 (知)
 - 聞く・話す・書くなどの言語活動を取り入れ、表現力の向上を図る。
 - 学習の振り返り・反復練習により、基礎・基本の定着を図る。
- (2) 元気な子 (体)
 - 望ましい生活習慣を身に付けさせる。
 - 運動、外遊びを奨励し、体力向上と健康増進への意欲付けをする。
- (3) 助け合う子 (徳)
 - 人を大切にすることを心がける児童・集団に高める。
 - 主体的に取り組んだり、合意形成したりできる児童・集団に高める。

東幼稚園は、年少すみれ組・年長すみれ組合わせて35名です。主体的に遊ぶことを通して、「元気な子」「やさしい子」「がんばる子」「がんばる子」を育てています。幼稚園・小学校とともに、保護者や地域の皆様のご支援と見守りをいただきながら、「心豊かでたくましい里見っ子」を育てていきたいと考えています。また、新型コロナウイルス感染症拡大の防止も含め安全・安心で信頼される学校の創造を目指します。本年度もどうぞよろしくお願ひいたします。



進んで学ぶ子



幼稚園誕生会

スマートフォン・ゲームの適切な利用についてのお願ひ

子どもたちが、スマートフォンやゲームを長時間の中で、ネット上のいじめや犯罪被害につながるケースが、大きな問題となっています。また、健康面の心配や学習時間の減少も指摘されています。里庄町では、統一ルールとして、「使うのであれば午後9時までの使用とする。家庭の事情により、家庭内のルールが弾力的になる場合も考えられるが、友達等には、午後9時以降はメールやラインを送らないようにする。」としています。

子どもを守るのは、社会の大人全体の責任です。さらに、子どもが一番身近にいる大人は、保護者の皆様です。保護者の責務として、家庭内のルール作りをお願いいたします。ご家庭で、お子様としっかり話し合って、子どもも納得するルール作りを進めてください。※各家庭での徹底をお願いいたします。



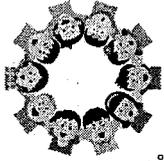
指導主事 天野 正彦

教育相談日のお知らせ

日	毎週 月曜日・火曜日・水曜日 (原則)
時	午前9:00~12:00 午後1:00~5:00
場	「里庄むつみ会館」(里庄町里見1004)

お子様の学習や発達障害等について、相談を希望される方は教育委員会事務局 (0865-64-7212) までご連絡をお願いします。(ご希望日時が重なった場合、調整させていただきます。)

担当者 教育相談員 栗尾康子



令和2年12月9日

里ちゃんだより



里庄町教育委員会 電話 0865-64-7212

教育長あいさつ

里庄町教育委員会 教育長 杉本 秀樹

町民の皆様方には、教育行政の推進につきまして、何かと大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。新型コロナウイルス感染症防止対策として、社会教育体育施設においては、使用人数の制限等にご協力いただき、誠にありがとうございます。また、各幼稚園、小学校、中学校においても、引き続き感染症対策として、学習指導の方法や行事等の内容変更を行い、教育活動を行っております。そのような中で、子どもたちは元気に過ごしています。これもひとえに学校園の取り組みに対しまして、家庭、地域の皆様のご理解とご協力のおかげであります。心より感謝申し上げます。

このようなか、本町では、文部科学省の主導で推進している、小・中学校の児童・生徒1人1台の学習者用コンピュータ等の端末と、高速大容量の通信ネットワークを整備する「GIGAスクール構想」について、計画的に準備を進めております。令和2年度中に整備を完了し、令和3年度から本格使用開始を予定しております。

今後とも皆様のご理解とご協力を仰ぎながら、学校教育・生涯学習のさらなる推進を図ってまいりますので、どうぞよろしく願います。

GIGA スクール構想の推進について

～文部科学大臣メッセージより抜粋 一部要約～

Society (ソサイエティ) 5.0 時代に生きる子どもたちにとって、パソコン端末は鉛筆やノートと並ぶ必要不可欠な教具です。今や、仕事でも家庭でも、社会のあらゆる場所で ICT (情報通信技術) の活用が日常のものとなっています。社会を生き抜く力を育み、子どもたちの可能性を広げる場所である学校が、時代に取り残され、世界からも遅れたままではいられません。

1人1台端末環境は、もはや令和の時代における学校の「スタンダード」であり、特別なことではありません。これまでの我が国の150年に及ぶ教育実践の蓄積の上に、最先端の ICT 教育を取り入れ、これまでの実践と ICT との融合を図っていくことにより、これからの学校教育は劇的に変わります。

この新たな教育の技術革新は、多様な子供たちを誰一人取り残すことのない公正に個別最適化された学びや創造性を育む学びにも寄与するものであり、特別な支援が必要な子どもたちの可能性も大きく広げるものです。忘れてはならないことは、ICT 環境の整備は手段であり目的ではないということです。子供たちが変化を前向きに受け止め、豊かな創造性を備え、持続可能な社会の創り手として、予測不可能な未来社会を自立的に生き、社会の形成に参画するため、資質・能力を一層確実に育成していくことが必要です。その際、子どもたちが ICT を適切・安全に使いこなすことができるようネットリテラシーなどの情報活用能力を育成していくことも重要です。

里庄「生きる力」向上プロジェクト さとしょう未来塾

今年も「さとしょう未来塾」が始まりました。新型コロナウイルス感染症拡大をうけ、里ちゃん寺子屋の開校式を2ヶ月遅れの7月4日に行いました。

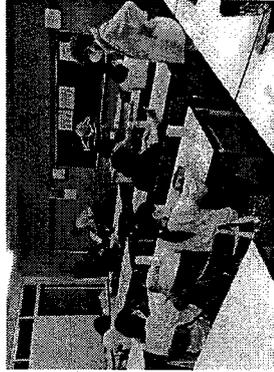
「さとしょう未来塾」は、里庄の子どもたちに、「生きる力」を育む事業です。対象は、原則、小学校4年生から中学校3年生とされています。

「さとしょう未来塾」には、2つの事業があります。1つは、里ちゃん寺子屋です。学校が休みの土曜日に子ども居場所づくりとして、自学自習する場を提供し、学習習慣をつけることで学力の向上及び「生きる力」の育成に努めています。子どもたちは、宿題や課題を持って来て学習します。その中で、お互いに教え合ったり、町内ボランティアの方が支援してくださったりします。子ども相互の交流や地域の方々の参画によって、地域で育ててほしい気運が育まれています。昨年度からは、中学校の定期考査期間中に合わせ、放課後の学習の場を提供し、好評を得ています。

もう1つは、里ちゃんチャレンジ・ワールド 体験活動です。今年、コロナ禍の影響で、活動が限られていますが町民の方々や企業のご支援をいただき、活動できています。学区や学年を越えて、一緒に活動し協力して成し遂げる喜びを味わったり、新しい発見に触れたりして、心を揺さぶれる経験をしています。

あわせて、ふるさとを再発見しその素晴らしさに気づき、愛しく思う心も培っています。事業により親子で参加し、絆を深めています。

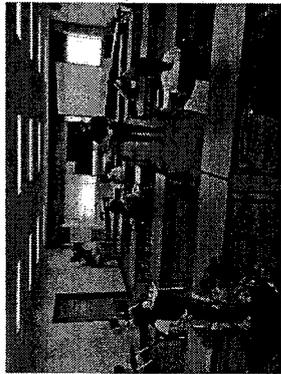
(文責：教育コーディネーター 峰谷 真治)



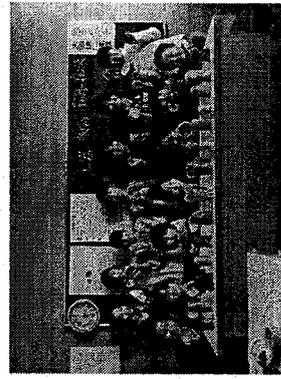
「里ちゃん 寺子屋」



里ちゃんチャレンジ・ワールド「囲碁教室」



里ちゃんチャレンジ・ワールド「福祉体験」講座



里ちゃんチャレンジ・ワールド「大原焼に挑戦」

裏面に続く

GIGA スクール構想推進で育む情報活用能力とは

情報活用能力とは、世の中の様々な事象を情報とそ
の結び付きとして捉え、情報及び情報技術を適切かつ
効果的に活用して、問題を発見・解決したり自分の考
えを形成したりするために必要となる資質・能力です。具
体的には、必要な情報を主体的に収集・判断・処理・
編集・創造・表現し、発信・伝達できる力を付けてい
くことです。また、基礎的・基本的な知識・技能の確
実な定着とともに、知識・技能を活用して行う言語活
動の基盤となるものであり、「生きる力」に資するもの
です。

新学習指導要領の改定と1人1台のパソコン端末の導入に伴い、学校の学習のスタイルは
変化をしています。本町でも情報活用能力を育むため、環境整備を進めるとともに、より良
い指導方法の検討についても、各学校の教員と力を合わせて進めてまいります。

(文責：事務局長補佐 天野 正彦)

情報活用能力



参考：小学校学習指導要領総則編

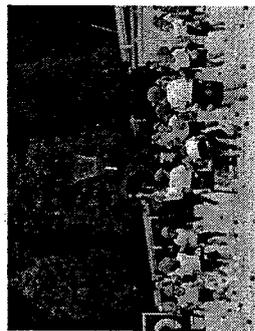
異年齢の交流について

里庄西小学校では、本年度、春の運動会の代わりに10月
にスポーツフェスティバルを行いました。新型コロナウイルス
感染症拡大防止のため、低学年(1、2年生)、中学年
(3、4年生)、高学年(5、6年生)に分かれて行いました。
かけっこ、リレー、玉入れ、綱引き、ドッジボールなどの種
目にかいっぱい取り組み、お互いに応援をしました。当日は、
お家の方の応援をいただき、より達成感や充実感を高めまし
た。例年とは違う行事のやり方でしたが、異年齢の貴重な交
流の場となりました。

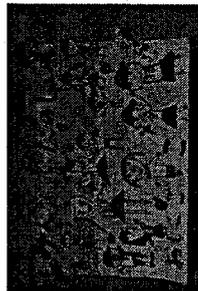
また、児童会では、各学級で1枚の絵を協力して描き、校
長室前に掲示して他の学年の絵を見合う取組を行いました。
どの学級の絵も、それぞれにメッセージが込められており、
児童は、賞賛の声をあげていました。

幼稚園では、異年齢と一緒に活動することで、相手を思い
やる気持ちを育むようにしています。年少児は、年長児が遊
んでいる様子を見て、憧れを抱いたり、新しい遊びやルール
を覚えたりします。年長児は、自分たちが手本になることで
自分の言動に自信をもったり、大きくなったことを実感した
りします。そのために教師は、遊びの環境構成や援助の工
夫に努めてまいります。

このように学校・園では、コロナ禍の中で、異年齢の交流
に安全に配慮して取り組んでいます。今後とも様々な工夫を育
しながら、豊かな体験を通して、「里西っ子の生きる力を育て
る」という学校・園目標の実現に努力してまいります。



スポーツフェスティバルの様子



学級で協力して描いた絵



異年齢と一緒に遊ぶ園児

コロナに負けるな 里見っ子



校内放送で感染症予防を呼びかける

昨年度末からの新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、学校園教
育においても臨時休業をはじめ、行事の取りやめや縮小など、例年と
異なった教育課程の推進を余儀なくされている中、子どもたちには感染
症予防を踏まえ、工夫した取組を行っています。

小学校では、児童会が中心となって全校児童の意見をもとに、コロ
ナ禍の下でも次のような工夫した活動を行いました。

4月の「1年生を迎える会」は校内放送を使ってお祝いメッセー
ジを届けた。O×クイズで楽しんでました。6月には「コロナに
負けるな里見っ子大作戦」と称し、ポスター、標語づくりをはじめ、
放送での呼びかけ、あいさつ運動など、各学級と各委員会とで役割を分担し、みんなの心と体を元
気にする取組を行いました。10月には、11月に開催の「スポーツフェスティバル」を盛り上げ
て楽しくする工夫を話し合い、スローガン決め、飾り付け、応援メッセージ作成などに取組み、
でも学校生活を楽しく豊かなものにしようと、児童自らの発案で、知
恵を絞って取り組んでいます。これからも児童の自主性の伸張を図っ
ていきたいと思っています

幼稚園では、9月に「親子なかよし運動会」を開催しました。天
候不順のため小学校体育館を会場に、感染症対策を徹底しながら行い
ました。今年度初めての保育参観でもあり、親子共に笑顔あふれる
楽しい時間となりました。



親子で楽しくジャンケンポン

中高連携(出前授業)

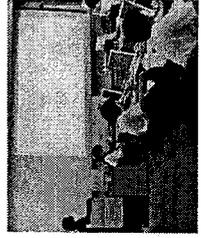
多くの中学3年生にとって、初めての受験が迫っています。
中学校入学後から、進路学習を行っています。やはり3年
生になると、高校入試というものが身近に感じられ、生徒一
人一人が、より真剣に進路決定に向き合うようになっています。

例年であれば、春先から夏休みにかけて、各高校で開催さ
れるオープンスクールに出かけ、進路決定の重要な材料の1
つとします。しかしながら、今年は、新型コロナウイルス感
染症拡大防止の観点から、オープンスクールの中止が相次ぎ
ました。生徒自身が、実際に見て、聞いて、体験するという
機会が失われてしまいました。そこで、里庄中学校で例年9月に行われ
ている出前授業を7月に早めて実施しました。いつも出前授業で、お世
話になっている笠岡高校、笠岡商業高校、笠岡工業高校の3校にも時期
変更し快く応じていただき、生徒にとって進路決定の大きな一助となつ
たと思います。高校の先生による理科の実験や英語の授業、初めての体験
するマーケティングや情報処理の授業、溶接、測量など、どれも魅力的
な授業で、どの生徒も意欲的に熱心に取り組むことができました。今後
も中高連携、また、小中連携を継続しながら、切れ目のない教育を大切
にしていきたいと思っています。

里庄中学校長 池田 敬治



溶接体験の様子



情報処理の授業の様子

里ちゃんだより

里庄町教育委員会

電話 0865-64-7212

「地域の皆様、いつもお世話になっております」

日頃より町民の皆様方には、教育行政の推進につきまして、格別のご理解とご協力をいただき心よりお礼を申し上げます。本年度は、新型コロナウイルス感染症対策をいたしたため、様々な事業が変更・中止を余儀なくされましたが、多くの地域の皆様方に行ったため、温かいご支援・ご協力をいただき、子どもたちの健全育成を進めてまいりました。これからは、学校と家庭・地域の連携を大切にしていきたいと考えております。

学期中は、新型コロナウイルス感染症対策をしていただきながら、暑い日も寒い日も各地域で、子どもたちの登下校に合わせて、防犯・安全活動を実施していただきました。「子どもも安全パトロール員」の方々の積極的な見守りや声かけにより、子どもたちの安心・安全な登下校が保たれています。本当にありがとうございます。

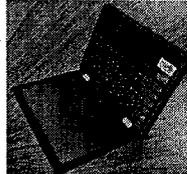
5年目を迎えました「さとしよう未来塾」につきましては、こちらも予定通りの事業を行わず大変残念でしたが、来年度に向けて地域の方々をはじめ、各種団体や町内企業の方々や講師やボランティアとして参加していただき、子どもたちの支援をお願いしたいと考えております。

さて、来年度は、中学校学習指導要領の本格実施や、GIGA（ギガ）スクール構想実施に伴う、小中学生全員へのパソコン端末の貸与に伴い、学校での学習のスタイルは変化をしていきます。これからも、教育委員会と学校が協力しながらより良い教育の実現を目指して努力をしていきます。

引き続き、子どもたちの元気な声と笑顔が見られるよう、学校・家庭・地域との連携を深めていきたいと考えておりますので、ご支援・ご協力をどうぞよろしくお願いたします。
(文責：事務局長 小寺 大輔)

GIGA スクール構想推進に向けて

GIGA スクール構想推進の2本柱である、「高速通信環境」「1人1台端末」の整備が終盤を迎えています。高速通信環境の整備がほぼ終わり、あとは、1人1台端末が搬入を待つばかりです。実際には、4月からの運用になりますが、子どもたち一人ひとりに、アカウント(インターネット上でサービスを受ける権利)が配布され、様々なソフトウェアを利用できるようにになります。例えば、一人ひとりの学習の理解度に応じた問題が提示されるソフトウェアや、グループでの話し合いをパソコン上で行えるソフトウェアなど、場面や状況に応じた学習が進められるように、教職員と使い方の研修を進めながら準備をしています。



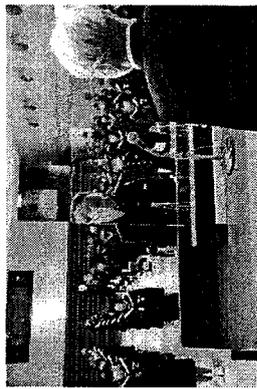
導入される端末

第53回里庄町立志式 「夢に向かって努力します！」

里庄町では、今後の人生を考える機会として、里庄中学校2年生を対象に、立志式を開催しています。毎年2月に実施しており、今年度は94名の生徒が参加しました。

記念式典では、加藤町長から「多様化する時代で自分に合う目標を見つけ、努力してほしい。」と式辞があり、杉本教育長から記念品のトートバッグが贈られました。また、立志を迎えた生徒の代表として、田中悠真さんが「何事にも挑戦し続け、仲間と励まし合いながら、夢に向かって努力します」と宣言しました。

式典後は里庄中学校の卒業生で東京大学大学院総合文化研究科 佐藤守俊 教授から「生命の設計図を書き換えるゲノム編集」と題してオンラインで講演がありました。佐藤先生はご自身の研究内容と生徒からの質問に回答し、目標を設定して努力することの大切さを伝えました。
(文責：吉川 大和)



立志の誓いを述べる様子

【里庄町歴史民俗資料館】

里見山中遺跡展示コーナー新設しました！！

令和2年6月、資料館に新しい展示ケースを設置しました。展示ケース内には、里見山中遺跡から出土した遺物を展示しています。

この遺跡の発掘は、岡山県古代吉備文化財センターの指導を受け、平成25年4月から5月にかけて、町内で行われた初めての本格的な発掘調査です。

発掘調査地域の字名から里見山中遺跡と名付けられたこの遺跡からは、中世の窯跡(かまあと)や土器片が多数出土し、穴(土抗(どこう))や溝、建屋(たてや)と思われる柱穴等の遺構が発見されました。土器片は、内耳鍋(ないじなべ)・鍋・すり鉢が全体の約80%を占め、その他に、皿・火舎(かしや)(火鉢)・鉢・羽釜(かめ)などが出土しました。

これらの遺物が、形状や年代測定により16世紀以降のものであると思われることから、里見山中遺跡は中世・近世の生産遺構であり、瓦質土器を生産する工房の一端を担っていたことが明らかになりました。出土した窯は、本町大原地区で制作されてきた大原焼の窯と類似した特徴を有していて、深い関わりを持っていただと考えられています。資料館には大原焼も展示していますので、形状や色などをぜひ比較してみてください。



火舎



内耳鍋



内耳鍋 (耳部分)

展示資料

～スマートフォン・ゲームの適切な利用について～

里庄町教育委員会は、町、学校、PTAと連携して、子どもがネット上のいじめや犯罪に巻き込まれないようにするために、町全体でスマートフォンやゲームの使用についてのルールづくりを推進しています。

里庄町の統一ルールとしては、「使うのであれば午後9時までの使用とする。家庭の事情により、家庭内のルールが弾力的になる場合も考えられるが、友達等には、午後9時以降はメールやラインを送らないようにする。」としています。特に進級や進学する時に、スマートフォンやゲームを持ち始めることも多いと聞いています。ゲームに動画、SNSなど、スマートフォンは子どもにとっても魅力がいっぱいだと思います。使い始めると自分でコントロールすることが難しくなります。手遅れになる前に、ルールを守れる環境をつくっていただく上で、使うことが大切になります。お子様が持ち始める時に、親子でしっかりと話し合い、ペアレンタルコントロール（利用時間制限、アプリの制限等）を活用して、親子でしっかりと話し合ってください。安全・安心に日々が送れますように、皆様のご理解とご協力をよろしくお願いたします。
(教育長 杉本 秀樹)

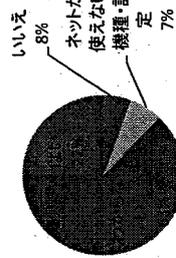
里庄町の子どもの様子（スマートフォン・ゲームの実態調査より）

里庄町教育委員会は、今年度の11月2月から1月にかけて、町内小学校4年生から中学校3年生までの児童、生徒にスマートフォン・ゲームの使用について実態調査を行いました。その結果から気になる質問項目について紹介いたします。

子どもを守るには、社会の大人全体の責任です。子どもが一番身近にいる大人として、まずは、家庭内のルール作りについて取り組ましましょう。ご家庭で、お子様としっかり話し合せて、子どもも納得するルール作りを進めてください。
(文責：天野 正彦)

小学校（4年生～6年生）

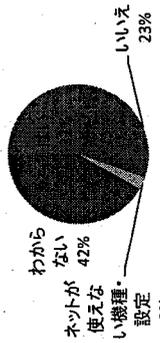
フィルタリング設定をしているか



フィルタリング設定をしている子どもが約2割

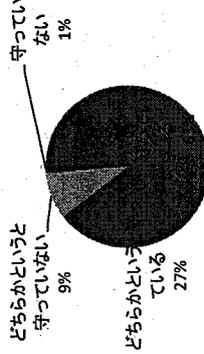
中学校（1年生～3年生）

フィルタリング設定をしているか



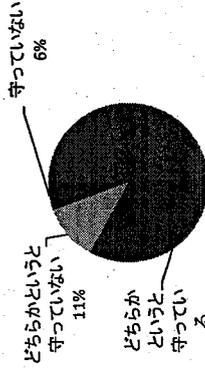
フィルタリング設定をしている子どもが約3割

家庭のルールを守っているか



守っている子どもが約6割

家庭のルールを守っているか



守っている子どもが約5割

気に谷ります！

「フィルタリング設定」の質問及び「家庭のルールを守る」質問は、例年より1割から3割ほどポイントが下がっています。新型コロナウイルス感染症対策で、自宅等で過ごす時間が長くなりました。そのことも影響しているのか、スマートフォン（携帯電話を含む）を使う時間が増加傾向にあります。増えた時間は、1～2時間が多いようですが、中には、3時間以上増えた子どももいます。

里ちゃんチャレンジ・ワールド「大原焼に挑戦」

体験教室 作品展 展

開催日 令和3年3月 6日(土) 7日(日) 13日(土) 14日(日)

開催時間 午前9時～午後4時 入館無料

場所 里庄町歴史民俗資料館(里庄町新庄2405)

主催 里庄町教育委員会・里庄町文化財保護委員会

協力 大原焼プロジェクト



昨年の秋、中央公民館を会場に町内の小学生の参加のもと、大原焼体験教室を行いました。大原焼の歴史講義、制作活動を通して、地域文化の素晴らしさを学びました。

また、学区や学年を越えて、一緒に活動し協力して成し遂げる喜びを味わったり、新しい発見に触れたりして心を揺さぶられる経験の中で「生きる力」を育みました。あわせて、大原焼を伝承されている地域の方々と触れ合いの中でふるさとを愛でる心を養いました。

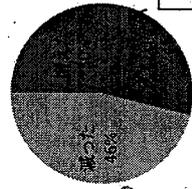
今回の作品展の会場である資料館には江戸中期以降にこの地で制作された作品が展示されています。このたびの作品展とあわせて、ふるさと里庄のすばらしさを感じながら鑑賞していただければ幸いです。

資料館前広場では、大原焼プロジェクトの方々が「土ひねり体験コーナー」を設け、親子でも、子どもだけでも(4年生以上)、大人も楽しめる企画をしてください。お誘い合わせて、お越しください。
(文責：蜂谷 真治)

完成記念「できたぞ！笑顔一杯！」

小学校（4年生～6年生）

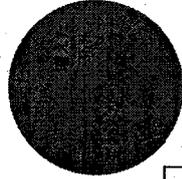
あなたは臨時休業中と今を比べて、スマートフォン等を使う時間はどのように変わりましたか



時間が増えた子どもが3割

中学校（1年生～3年生）

あなたは臨時休業中と今を比べて、スマートフォン等を使う時間はどのように変わりましたか



里庄町教育委員会の最重点施策

○ 学校教育の安定と充実

1. 落ち着いた集団づくり

- ・ 基本的な生活習慣
- ・ 生活規律、学習規律の徹底（あいさつ、そうじ、はきもの、話の聴き方）
- ・ ハイパーQ U検査（小1から中3まで年2回の実施）
- ・ 生活支援員の配置（幼小中で合計24名）・うち小中連携支援員（2名）
- ・ 教育相談員の配置
- ・ 家庭教育との連携（里ちゃんだよりの発行、親学研修、教育講演会）

2. 確かな学力をつける

- ・ 1時間1時間の授業を大切にする（授業改善の推進）
- ・ 全国及び県の学力調査の有効活用
- ・ 小中連携の取り組み

※ 里庄町の学力向上の重点目標

小中連携による落ち着いた学習環境づくりと学習意欲を高めるための授業改善

- ① 基礎基本の徹底
- ② 言語活動の充実による表現力の育成（論理的に書く力・コミュニケーション力）
- ③ 家庭学習の充実（復習・予習を意識して 手引きの活用、生活時間調査）

※相互授業参観、出前授業、体験授業の実施、合同研修会（幼稚園含む）

- ・ 反復学習と補充学習

※朝の学習、帰りの会、サマースクールの実施

3. 豊かな心、豊かな人間性の育成

- ・ 人権教育、道徳教育の推進
- ・ 家庭・地域との連携、ふるさと里庄町への郷土愛を育てる
立志式、二分の一成人式の取り組み、里庄まこもたけの学習、地域偉人の学習
- ・ 生涯学習との連携（さとしょう未来塾）
- ・ 食堂給食の推進と活用

○ 社会教育の充実

- ・ さとしょう未来塾（里ちゃん寺子屋、里庄チャレンジ・ワールド）を開設（暁天座禅 地元企業や国際交流協会との共催事業、陶芸教室、科学教室、歴史勉強体験、地域の 方々との共催事業等）
- ・ 子どもに豊かな心や科学的素養が育つ環境や機会を提供（仁科芳雄博士生誕日記念科学 講演会、柔道・剣道スポーツ教室、野球・サッカースポーツ少年団、立志式 等）

○ 家庭教育の充実

- ・ 小学校就学時健康診断や中学校入学説明会時に、子育て講座（親育ちの研修）を開催
- ・ 保護者同士が、子育てに共通する悩みを共に考える講座（子育て未来塾）を開催
- ・ 家庭と地域と学校が連携し、子どもを育むことについて考える「里庄町教育を考えるつ どい」を開催
- ・ 町内の学校、園の様子を広く知ってもらうため「一日学校公開」を開催

さとしょう未来塾

○ 里ちゃん寺子屋事業 参加人数

第 1回	7月	14人	第 2回	8月	10人	第3回	10月	11人
第 4回	11月	11人	第 5回	12月	12人	第6回	1月	9人
第 7回	2月	11人	第 8回	3月	12人			

参加者 小学校4年生から6年生及び中学3年生 14人

指導ボランティア 9人 (町内一般成人8人、町外一般成人1人)

1回あたり平均参加者 11人

※ 中学校定期試験中に、中学生を対象とした寺子屋事業を実施

○里ちゃんチャレンジ・ワールド 参加人数 (指導者等含む・複数回数実施は延べ人数)

囲碁教室 58人 (毎月1回)

暁天座禅 新型コロナウイルス感染症のため中止

冒険キャンプ 新型コロナウイルス感染症のため中止

学童グラウンドゴルフ 新型コロナウイルス感染症のため中止

ハロウィン・パーティー (国際交流協会主催 フォトコンテストへ参加) 85作品

わくわく科学ランド 新型コロナウイルス感染症のため中止

福祉講座 10人 (初級・中級)

大原焼に挑戦 14人

まこもしめ縄づくり (町PTA連合会と共催) 15人